

# 日本における総理大臣の身長と好ましさの関係

戸澤 純子\*

## The relationship between Prime Ministers' height and preference in Japan

Junko TOZAWA

### 要 旨

本研究はアメリカ大統領の身長と好ましさ指標には正の相関関係があるという先行研究の報告をきっかけとして、日本の総理大臣の身長と好ましさ指標間の関係を検討した。在職日数と内閣支持率を総理大臣に対する好ましさ指標として、総理大臣の推定身長との相関を計算した。その結果、総理大臣の身長と在職日数には負の相関関係が見いだされた。この傾向はサンプリングを変えても同様であり、アメリカ大統領の身長研究結果とは、反対の方向の結果であった。在職日数の好ましさ指標としての妥当性を検証した結果、高い基準関連妥当性があると考えられた。これらの結果は日本の総理大臣の場合、アメリカ大統領とは明らかに異なって、身長の高さが総理大臣としての好ましい評価、尊敬や信頼の評価を受けることにはならないことを示唆している。

キーワード：身長、総理大臣、好ましさ評価、在職日数、文化比較

### 1. 問題：なぜ総理大臣の身長研究をするのか

アメリカの大統領選では、身長の高い候補者が勝利するという社会通念があるという (e.g., Stulp, Buunk, Verhulst, & Pollet, 2013)。アメリカの新聞コラムでは、選挙の時期になると候補者の身長に関する話題が取り上げられ、候補者たちの身長による当選予測がしばしば行われる (e.g., Adams, 1992; Baker, 2007)。またアメリカの有権者たちは、候補者たちの身長に関心を示すという。Woolls (2020) によれば、2016年の大統領選で共和党の討論会の最中に、Google

---

\*教授 認知心理学

で最も検索されたのはジェブ・ブッシュ (Jeb Bush) 候補の身長についてであった。

大統領の身長の高さに関しては、新聞記事だけでなく、科学的な指標を使用した研究も数多く行われてきた。多くの研究の結論を要約すれば、候補者の身長はアメリカ大統領選挙において重要な影響を持つ。Higham & Carment (1992) は、1905年から1980年間のアメリカ大統領の身長は、野党の党首よりも有意に高いことを示した。物理的な身長ばかりでなく、有権者が推定した身長も重要な要因である。Kassrjian (1963) は、1960年のアメリカ大統領選において、有権者の投票行動と候補者の見かけの身長に関連があることを示した。ケネディ候補とニクソン候補の支持者の投票行動を比較すると、ケネディ候補に投票を予定する有権者の68.1%はケネディ候補の身長が高いと推定し、ニクソン候補に投票を予定する有権者の47.3%はニクソン候補の身長が高いと推定していた。物理的にはケネディ候補の身長がニクソン候補よりも高い。

これらの研究が示唆することは、アメリカ社会において政治的指導者の身長は高い方が好ましいという価値観があることである。Stulp たち (2013) によれば、身長の高い大統領は、低い大統領に比べて、強い指導力を持ち、高いコミュニケーション・スキルを持つ優れた大統領と評価されるという。Sorokowski (2010) によれば、身長の高さは支配性と結び付くという。

では日本においても、政治指導者の身長と好ましさという心理的評価との間に関連は認められるのだろうか。このことを調べるのが本研究の目的である。アメリカと日本とでは政治制度を含めてさまざま状況が異なるものの、大統領に対応する政治指導者は内閣総理大臣である。日本において1885年に内閣制度が発足して以来、明治、大正、昭和、平成の時代に98代の内閣総理大臣が政治指導者を務めた。先述のアメリカやカナダの研究では、政治指導者の身長と好ましさの関係を示すために、有権者の投票率や新聞などに掲載された専門家による評価などを好ましさの指標としてきた。本研究での好ましさの指標は総理大臣の総理大臣の在職日数と内閣支持率とする。内閣支持率は、主に新聞社やテレビ局が有権者を無作為抽出して行われる世論調査である。この調査数値は、各社によって異なるものの、有権者の内閣に対する期待や内閣の業績評価とみなされる (e.g., 前田 (2005))。支持率が高ければ、総理大臣に対する評価も高いと考えることができる。ただし各新聞社が支持率調査を開始したのは敗戦後のことであり、支持率が好ましさ指標となりうるのは、戦後内閣の総理大臣に限られる。そこで、明治時代から共通した指標として在職日数を選んだ。明治時代から平成時代を通して、憲法、選挙制度など国政の根幹となる制度に変化があった。その中で有権者である国民全体ではなくとも、少なくとも周辺の政治家など関連ある人々からの支持がなければ、総理大臣の職は続けられないはずである。このような理由から、内閣総理大臣に対する好ましさの指標として、在

職日数と内閣支持率を選定した。

## 2. 研究方法

### 2.1. データの収集

#### 2.1.1. 内閣総理大臣と在職日数の算定法

本研究において、分析の対象としたのは内閣制度が発足して以降、明治、大正、昭和、平成時代のすべての総理大臣である。日本政治の歴史には同一人物が複数回総理大臣を務める場合があり、在職日数の算定法には規則が必要である。第2次以降の内閣で多くは衆議院の解散、総選挙を経て、勝利した政党の代表者が内閣総理大臣として指名される。例えば佐藤栄作総理大臣は、1964年11月から1967年2月までの間、第1次佐藤内閣において内閣総理大臣を務めた。1967年に行われた衆議院の総選挙に勝利した後に、引き続いて1967年2月から第2次佐藤栄作内閣が始まった。このような場合には、一連の佐藤内閣として在職日数を算出した。また、同じ人物が時期を隔てて複数回、総理大臣を務める場合もある。この場合には、別内閣として扱った。例えば伊藤博文総理大臣の場合、4度総理大臣を務めた。4度の時期は隔たれていたために別内閣として扱い、それぞれの内閣の在職日数を算定した。また本研究では、総理大臣の死亡などによる臨時総理大臣は、在職日数が極端に少ないために分析に含めないこととした。なお安倍晋三総理大臣に関しては、平成から令和まで長い期間総理大臣の職を努め、第4次安倍内閣の2020年8月28日に辞意を表明した。在職日数を算定するために何らかの基準が必要なため、本研究では令和時代の総理を分析に含めないこととした。安倍内閣に関しては平成時代の第3次内閣までを分析の対象とした。2012年（平成24年）から続いた第2次、第3次の安倍総理大臣の在職日数は1773日と算定した。

1885年（明治）から2017年（平成）までの時期に、上述の方法で内閣総理大臣を算定すると、76代の内閣が日本に存在したことになる。上述の方法で算定した76代の総理大臣の在職日数は付表1に示した。

#### 2.1.2. 総理大臣の身長

本研究において総理大臣の身長は重要な変数であるために慎重な検討を行った。アメリカ大統領の場合、大統領に関するデータベースがオンライン上にも数多くあり（e.g., Leip (2001), *Atlas of U.S. presidential elections.*: <https://uselectionatlas.org/>), 身長が記載されているデータベースもある。アメリカ大統領に関する研究ではこれらのデータベースを利用できる。

しかし調べてみたところ、日本の総理大臣の身長は、書籍や新聞などに記載されることは滅多に無かった。伊藤博文総理大臣、松方正義総理大臣の場合、1902年（明治35年5月8日）の奥羽日日新聞の「本邦朝野紳士の体重」という記事において、伊藤博文氏は5尺3寸、松方正義氏は5尺7寸という身長が記載されていた。これは例外的事例であり、他の総理大臣の身長の記事を見つけることは困難であった。そこで本研究では総理大臣の身長を調べるために、写真から推定する方法を採用した。写真に写った形態情報からの身長推定の有効性は、これまで多くの実験的な研究で示されてきたことから（Kato & Higashiyama, 1998; 戸澤, 1996）、本研究においても採用した。本研究では、写真に写った本人と周辺の人物、事物と比較して身長を推定した。本人の全身写真があれば、比較的容易に他の事物などと比べて身長推定が可能であった。ただし椅子に座った写真が多かったため、複数枚の写真を組み合わせて身長推定を行った。このような方法で推定した各総理の身長を付表1に示した。

## 2.2. データの分析

### 2.2.1. 内閣支持率データ

総理大臣に対する好ましさの指標として、本研究では内閣支持率を取り上げる。新聞等の各社によって行われる内閣支持率調査は基本的に、「あなたは〇〇内閣を支持しますか、支持しませんか」という質問文で行われる。このことから内閣支持率は総理大臣に対してだけの好ましさの指標ではない。しかしながら、総理大臣個人に対する人々の評価が支持率に与える影響は極めて大きいと考えられている（前田（2005））。本研究では、調査の開始から無作為抽出法によるサンプリングが行われ、質問文として比較的早期から（1960年の池田内閣から（朝日新聞世論調査室（1976））「〇〇内閣を支持しますか、支持しませんか」という文言に統一した調査を行った朝日新聞による内閣支持率データを使用した。内閣支持率は、それぞれの内閣に対して定期的に行われるが、本研究では内閣発足時の内閣支持率を使用した。付表1に、朝日新聞社による内閣発足時の内閣支持率を示した。

### 2.2.2. データ分析方法

これらのデータを使用して、本研究では総理大臣の推定身長とそれぞれの好ましさ指数との相関係数を計算する。すでに紹介したアメリカ大統領の研究のように、身長が高いほど好ましさの程度も高くなるのであれば正の相関になる。一方アメリカ大統領研究には見いだせなかった関係として、身長が高いほど好ましさの程度が低くなるのであれば負の相関となる。

データ分析として、まず1) 全総理大臣の推定身長と在職日数の相関を計算した。次いで

2) 内閣支持率が判明している総理大臣の推定身長とそれぞれの好ましさ指数との相関を計算した。朝日新聞の内閣支持率調査は、1954年の鳩山一郎内閣からであるので、これ以降の総理大臣に関して分析を行った。

### 3. 結果

図1に全総理大臣の推定身長と在職日数の関係を示した。表1に示すように、相関係数は-0.19であり負であった。相関係数が負であることは、総理大臣の推定身長が高いほど、在職日数が短くなることを意味している。在職日数が好ましさ指数として妥当であれば(後に分析)アメリカ大統領研究では見出されなかった傾向である。統計的に有意な水準にはわずかに達しなかったものの、相関係数は $0.05 < p < 0.10$ の範囲の有意傾向にあった。なお図中には目安と

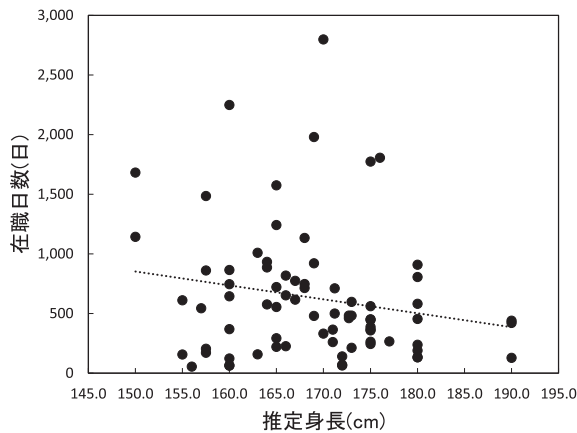


図1 総理大臣の推定身長と在職日数の関係

表1 総理大臣の推定身長と各好ましさ指数の相関

	全総理データ	内閣支持率が判明している総理		在職1年以上の総理	
	在職日数	在職日数	内閣支持率	在職日数	内閣支持率
相関係数	$r = -0.188$	$r = -0.164$	$r = +0.155$	$r = -0.261$	$r = +0.010$
有意水準	$p = 0.052$	$p = 0.194$	$p = 0.206$	$p = 0.033 *$	$p = 0.481$
データ数	N = 76	N = 30	N = 30	N = 50	N = 24

$p < 0.05 *$

して、点線で近似直線を示している。

図2、図3は内閣支持率調査が行われた総理大臣（N=30）に関する結果である。図2は推定身長と在職日数、図3は推定身長と内閣支持率の関係を示した。図から明らかなように、在職日数と内閣支持率では相関の方向が異なった。表1に示すように、どちらの好ましき指標も有意水準に到達しなかったが、在職日数は負、内閣支持率は正の相関の方向であった。

在職日数と内閣支持率という2つの好ましき指標の示す結果の方向が異なったために、追加の分析を必要とする。追加分析を行うにあたり重視したことは、本研究の目的は総理大臣の身

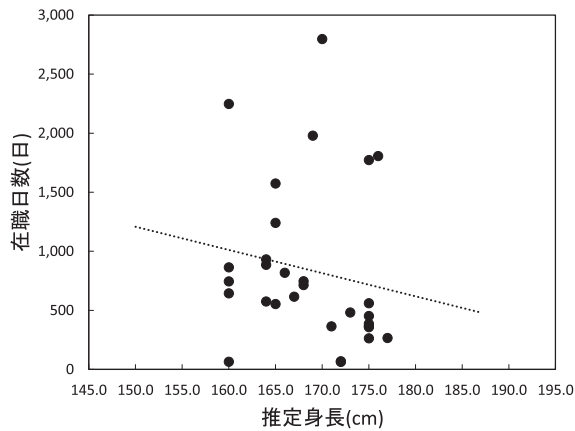


図2 内閣支持率が調査された総理大臣の推定身長と在職日数の関係

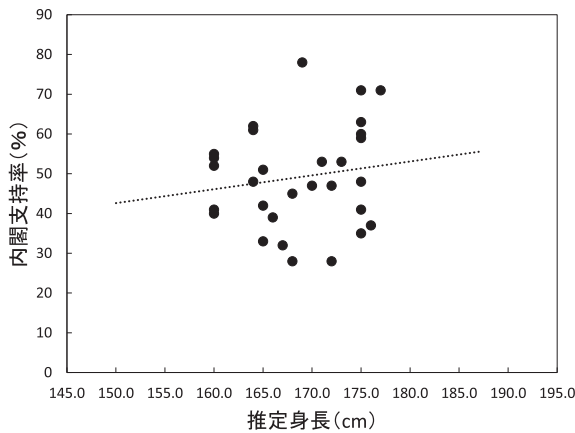


図3 内閣支持率が調査された総理大臣の推定身長と内閣支持率の関係

日本における総理大臣の身長と好ましさの関係

長（推定）が他の指標とどのような関係を示すかを明らかにすることである。このために推定身長の最小値から最大値の範囲が相対的に広いことが望ましい。図1と図2（図3）を比較すると明らかなように、内閣支持率調査は戦後から行われたために、戦後の総理大臣の身長は、全総理大臣の身長と比較して最小値から最大値の範囲が狭かった。戦後の総理大臣はおよそ160cmから175cmの範囲であり、全総理大臣の場合150cmから190cmの範囲であった。推定身長の範囲を相対的に広くするために、追加の分析は在職日数が1年以上の総理大臣を分析の対象とした。在職日数が1年以上の総理大臣の場合、推定身長は150cmから190cmであり、

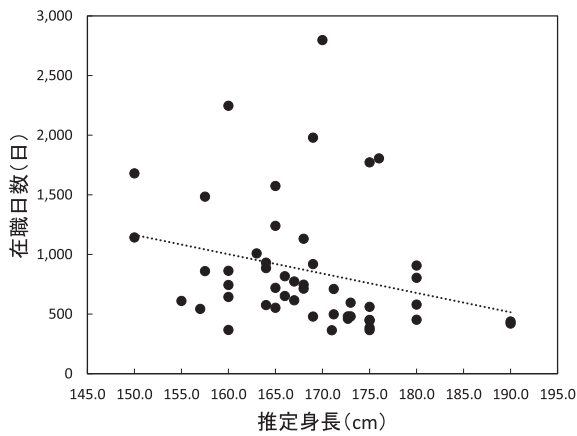


図4 在職日数が1年以上の総理大臣の推定身長と在職日数の関係

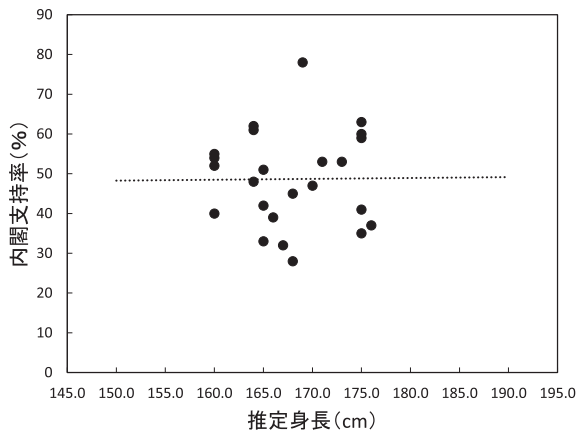


図5 在職日数が1年以上の総理大臣の推定身長と内閣支持率の関係

全総理大臣の推定身長範囲と同じであった。

在職日数が1年以上の総理大臣数は50名であったが、そのうち内閣支持率調査が行われた総理大臣は24名であった。図4には推定身長と在職日数、図5には推定身長と内閣支持率の関係を示した。この追加分析においても、在職日数と内閣支持率のでは相関の方向が異なった。表1に示すように、在職日数は推定身長と有意に負の相関関係にあった ( $r = -0.26, p < 0.05$ )。一方、内閣支持率と推定身長は正の相関の方向であるものの ( $r = 0.01, p = 0.48$ )、無相関であることを示している。

#### 4. 考察

本研究はアメリカ大統領の身長と好ましき指標には正の相関関係があるという先行研究の報告をきっかけとして、日本の総理大臣の身長と好ましき指標間の関係を検討した。在職日数と内閣支持率を好ましき指標として、総理大臣の推定身長との相関を計算した。その結果、総理大臣の身長と在職日数とは負の相関関係が見いだされた。この傾向はサンプリングを変えても同様であった。一方総理大臣の身長と内閣支持率との間には、正の方向の関係があったが、いずれの分析においても統計的な有意水準には到達しなかった。

本研究では、在職日数が総理大臣に対する好ましき指数として有効であることが示唆された。この変数が好ましきの指標として妥当であるかどうかを検証する必要がある。この方法として、心理検査等を作成する際に行われる基準関連妥当性を検証する手続きを採用した。基準関連妥当性とは、当該の指標とその他の指標間との一致度から、当該の指標の妥当性を調べる手法である。本研究においては、日本経済新聞が行ったアンケート調査の結果を利用することにした。日本経済新聞社は、2011年にweb形式で読者1221名に対して、戦後日本の歴代総理大臣の評価を調査した ([https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK05022\\_V00C11A1000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK05022_V00C11A1000000/))。回答者が評価すると考える総理大臣の名前を挙げてもらう形式で行われたアンケートでは、30名の戦後総理大臣の名前があがった。最も評価が高かったのは吉田茂総理であり、93.0%の回答者が「評価する」と回答した。次いで池田勇人総理 (87.8%)、中曽根総理 (82.6%)、小泉総理 (79.3%)、佐藤栄作総理 (77.1%) と続き、30番目は宇野宗佑総理 (2.6%) という回答であった。この日本経済新聞社のアンケートでの得票率と、本研究で使用した推定身長と在職日数の相関係数を表2に示した (分析においては、本研究で行った第1次と第2次のような分離は行わなかった。つまり安倍政権などは分離せず、通算在職日数で計算した)。



日本における総理大臣の身長と好ましさの関係

表2 本研究の推定身長と日本経済新聞のアンケートの関係

		推定身長	在職日数	アンケートの比率
推定身長	相関係数	—	$r = -0.03$	$r = -0.39$
	有意水準	—	$p = 0.43$	$p = 0.02 *$
在職日数	相関係数	—	—	$r = 0.64$
	有意水準	—	—	$p = 0.00 **$

注 \* :  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$

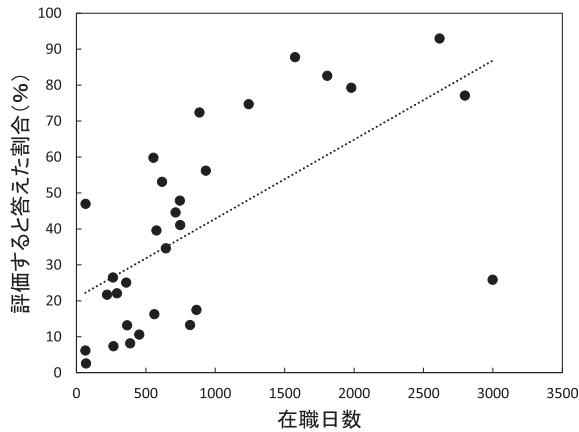


図6 本研究の在職日数と日本経済新聞アンケートで評価する総理大臣の割合の関係

図6に示す通り、本研究で使用した在職日数と日本経済新聞アンケート調査での評価間には、有意な正の相関関係があった ( $r = 0.64, p < 0.01$ )。この関係は本研究で使用した指標である在職日数が長いほど、日本経済新聞のアンケートで総理大臣としての評価が高いことを意味する。本研究における在職日数には好ましさ指標としての妥当性が認められると考えられる。

加えて図7に示す通り、本研究での総理大臣の推定身長と日本経済新聞者のアンケートで評価すると答えた比率間には、有意な負の相関関係が認められた ( $r = -0.394, p < 0.05$ )。つまり推定身長が低い(高い)総理大臣ほど、日経アンケートにおいて総理大臣としての評価が有意に高い(低い)ことになる。この結果は、本研究結果を裏付けるものとなる。つまり日本の総理大臣の場合、アメリカ大統領とは明らかに異なって、身長の高さが総理大臣としての好ましい評価、尊敬や信頼の評価を受けることにはならないということである。表2において、推定身長と在職日数の相関は、統計的に有意ではないものの、関係は負の方向にあった。

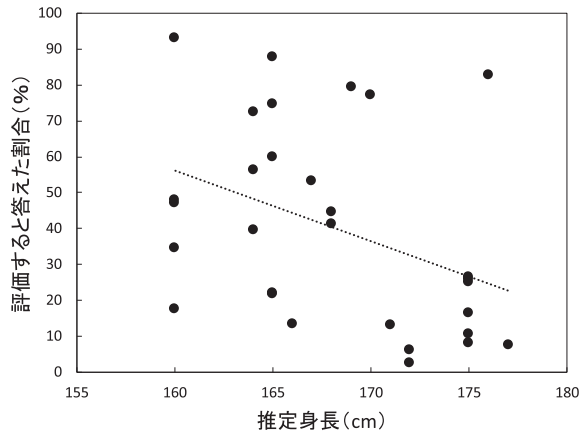


図7 本研究の推定身長と日本経済新聞アンケートで評価する総理大臣の割合の関係

本研究において、内閣支持率は総理大臣の推定身長と正の相関の方向にあったが、いずれの分析においても統計的に有意には達しなかった。また在職日数と内閣支持率は正の相関の方向であったが（内閣支持率調査以降の総理大臣（ $N=30$ ）， $r=0.13$ ；在職1年以上の総理大臣（ $N=24$ ）， $r=0.19$ ，いずれも  $p>0.05$ ），統計的に有意には到達しなかった。内閣支持率は、総理大臣の推定身長との関係においても在職日数との関係においても、何らかの指数として有効性が低いことを示唆する。これらの結果は、本研究においては内閣発足時の支持率をデータとして使用したことに関係するかもしれない。発足時の支持率は、有権者の期待の指標とはなるかもしれないが、総理大臣としての業績評価とは必ずしも一致しないのかもしれない。

本研究において、日本の総理大臣の場合、身長が低い方が総理大臣としての好ましさの評価が高いという負の相関関係が一貫して見いだされた。これらの結果は統計的には有意、もしくは有意傾向であった。重要なことは、身長が高い方が好ましいと評価されるアメリカ大統領に関する多くの研究結果とは、在職日数を指標とすれば明らかに異なったことである。この違いには、さまざまな要因が関係しているはずである。例えば山折（1981）は、直立の文化としてのヨーロッパと、座の文化としてのアジアについて論じた。立つという身体動作が、その社会的な環境の中で重要な意味を持つのであれば、物理的身長や知覚された身長の高さも社会的な意味を持つことになる。立と座という身体動作の文化差異が、指導者に対する心理的な評価に関係したかもしれない。小泉（1993）は中国、朝鮮、日本の社会におけるイス座（イスに座る）とユカ座（ユカに座る）の文化比較をした。小泉によれば、日本においては支配層も被支

配層も、歴史的な変遷はあるものの、どちらもユカ座を選択したという。この考察に従うならば、ユカに座ってしまえば、物理的身長の高さにかかわらず視線の高さはほぼ等しくなり、加えて座れば物理的身長は推定しづらくなるだろう。座り方の文化も、身長と好ましさ評価に関係があるかもしれない。ちなみに小泉によれば、中国においては支配層も被支配層もイス座であり、朝鮮においては支配層はイス座とユカ座の折衷、被支配層はユカ座という二重構造にあるという。

本研究は総理大臣の身長だけを検討したが、身長の高さと日本人集団の心理の関係は上述のように日本社会の文化にかかわる問題と筆者は考えている。なぜなら日本を代表する企業経営者たちを思い浮かべて、例えば世界的な車の会社の責任者のように、日本人集団から信頼され、尊敬される人物で身長の高い人物を思い浮かべる方が難しい。この予測に関係するかもしれない興味深い研究が近年報告された。理化学研究所等の研究チームが行った日本人の身長に関する遺伝子に関する研究報告である。Akiyama et.al. (2019) は、日本人約 19 万人のゲノム解析を行い、身長にかかわる 573 の遺伝的変異を同定した。これらの解析を通して、身長を高くする遺伝的変異が日本人集団では自然淘汰を受けている可能性を見出した。この研究によれば、高い身長は日本人にとって何らかの不利な影響を及ぼしたという。これらの結果は、欧米集団で見いだされた結果とは逆の結果である。

## 参考文献

- Adams, C. (1992, January 17). Does the taller candidate always win the election? The straight dope. Retrieved from <http://www.straightdope.com/columns/read/787/does-the-taller-candidate-always-win-the-election>
- Akiyama, M., Ishigaki, K., Sakaue, S., Momozawa, Y., Horikoshi, M., Hirata, M., Matsuda, K., Ikegawa, S., Takahashi, A., Kanai, M., Suzuki, S., Matsui, D., Naito, M., Yamaji, T., Iwasaki, M., Sawada, N., Tanno, K., Sasaki, M., Hozawa, A., Minegishi, N., Wakai, K., Tsugane, S., Shimizu, A., Yamamoto, M., Okada, Y., Murakami, Y., Kubo, M. and Kamatani, Y. (2019) Characterizing rare and low-frequency height-associated variants in the Japanese population. *Nature Communications*, 10.1038/s41467-019-12276-5
- 朝日新聞社世論調査室 (1976) 日本人の政治意識—朝日新聞世論調査の 30 年 (1976 年) 朝日新聞社
- Baker, P. (2007, October 11). Head and shoulders above the rest. *The Washington Post*. Retrieved from [http://blog.washingtonpost.com/44/2007/10/11/head\\_and\\_shoulders\\_above.html](http://blog.washingtonpost.com/44/2007/10/11/head_and_shoulders_above.html)
- Higham, P. A., & Carment, D. W. (1992). The rise and fall of politicians: The judged heights of Broadbent, Mulroney and Turner before and after the 1988 Canadian federal election. *Canadian Journal of Behavioral Science*, 24(3), 404–409
- Kassarjian, H. H. (1963). Voting intentions and political perception. *The Journal of Psychology*, 56(1), 85–88,

- <http://dx.doi.org/10.1080/00223980.1963.9923702>.
- Kato, K. & Higashiyama, A. (1998) Estimation of height for persons in pictures. *Perception & Psychophysics*, 60, 1318-1328.
- 小泉和子 (1993) 椅子と座—座り方の文化を中国・朝鮮・日本に見る アジアの中の日本史VI 文化と技術 荒野泰典, 石井正敏, 村井章介 (編) p. 243-272 東京大学出版会
- 前田幸男 (2005) 時事通信社世論調査に見る内閣支持率の推移 1989-2004 中央調査時報 (569), 5069-5077
- Sorokowski, P (2010) Politicians' estimated height as an indicator of their popularity, *European Journal of Psychology*, 40, 1302-1309
- Stulp, G., Buunk, A.P., Verhulst, S., & Pollet, T.V. (2013) Tall claims? Sense and nonsense about the important of height of US presidents, *The Leadership Quarterly*, 24, 159-171.
- 戸澤純子 (1996) 大きさ知覚における形情報の有効性：人物の身長について 日本心理学会第 60 回大会, 大会発表論文集, p. 520
- Woolfs, D. (2020, March) 米大統領になるには背が高い方が有利？ 指導者の身長の法則. *AFP BB New*.  
<https://www.afpbb.com/articles/-/3270229>
- 山伏哲雄 (1981) 「座」の文化論 佼成出版社

日本における総理大臣の身長と好ましさの関係

付表 1 本研究における総理大臣の推定身長、在職日数と内閣支持率（カッコ内は複数回総理大臣を務めた際の「次」を示す）

在職日数順位	氏名	推定身長	在職日数	内閣支持率 (朝日新聞社)	在職日数順位	氏名	推定身長	在職日数	内閣支持率 (朝日新聞社)
1	佐藤栄作	170.0	2,798	47	39	野田佳彦	173.0	482	53
2	吉田茂 (2～5)	160.0	2,248	55	40	西園寺公望 (2)	169.0	480	
3	小泉純一郎	169.0	1,980	78	41	松方正義 (1)	172.7	461	
4	中曽根康弘	176.0	1,806	37	42	近衛文麿 (2～3)	180.0	454	
5	安倍晋三 (2～3)	175.0	1,773	59	43	菅直人	175.0	452	60
6	桂太郎 (1)	150.0	1,681		44	若槻禮次郎 (1)	175.0	446	
7	池田勇人	165.0	1,575	51	45	加藤友三郎	190.0	439	
8	伊藤博文 (2)	157.5	1,485		46	山本権兵衛 (1)	190.0	421	
9	岸信介	165.0	1,241	33	47	森喜朗	175.0	387	41
10	桂太郎 (2)	150.0	1,143		48	吉田茂 (1)	160.0	368	
11	原敬	168.0	1,133		49	安倍晋三 (1)	175.0	366	63
12	東條英機	163.0	1,009		50	福田康夫	171.0	365	53
13	橋本龍太郎	164.0	932	61	51	麻生太郎	175.0	358	48
14	西園寺公望 (1)	169.0	920		52	廣田弘毅	170.0	331	
15	大隈重信 (2)	180.0	908		53	片山哲	165.0	292	
16	田中角栄	164.0	886	62	54	鳩山由紀夫	177.0	266	71
17	鈴木善幸	160.0	864	52	55	細川護熙	175.0	263	71
18	伊藤博文 (1)	157.5	861		56	小磯國昭	171.0	260	
19	海部俊樹	166.0	818	39	57	若槻禮次郎 (2)	175.0	244	
20	田中義一	180.0	805		58	平沼騏一郎	180.0	238	
21	齋藤實	167.0	774		59	幣原喜重郎	166.0	226	
22	三木武夫	168.0	747	45	60	芦田均	165.0	220	
23	鳩山一郎	160.0	745	40	61	高橋是清	173.0	212	
24	寺内正毅	165.0	721		62	伊藤博文 (4)	157.5	204	
25	福田赳夫	168.0	714	28	63	米内光政	180.0	189	
26	山縣有朋 (2)	171.2	711		64	伊藤博文 (3)	157.5	170	
27	濱口雄幸	166.0	652		65	清浦奎吾	163.0	157	
28	宮澤喜一	160.0	644	54	66	犬養毅	155.0	156	
29	小淵恵三	167.0	616	32	67	阿部信行	172.0	140	
30	岡田啓介	155.0	611		68	鈴木貫太郎	180.0	133	
31	加藤高明	173.0	597		69	大隈重信 (1)	180.0	132	
32	近衛文麿 (1)	180.0	581		70	山本権兵衛 (2)	190.0	128	
33	竹下登	164.0	576	48	71	林銑十郎	160.0	123	
34	村山富市	175.0	561	35	72	宇野宗佑	172.0	69	28
35	大平正芳	165.0	554	42	73	石橋湛山	160.0	65	41
36	黒田清隆	157.0	544		74	羽田孜	172.0	64	47
37	山縣有朋 (1)	171.2	499		75	桂太郎 (3)	160.0	62	
38	松方正義 (2)	172.7	482		76	東久邇宮稔彦王	156.0	54	